

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替長野6243・東京43341
電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

母校その後の一年

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

は し が き

国の教育や科学技術に対する政策、経済界の事情などがめまぐるしく変わる今日、大学だけが安閑の日を過ごすことは許されず、われわれは変動する社会情勢あるいは時世の要請するところをよく察知して、大学のあり方や将来の動向をきめてゆかねばならない。この数年は正に斯の如き時代である。当学部も例外でなくこの渦中にあるわけである。

総会を機会に恒例によってこの1年の母校の動静を同窓各位に報告したい。

大学院修士課程の設置

本年4月1日日本学部の大学院繊維学研究科修士課程の設置が正式に認可された。専攻課程は繊維農学、紡織工学、繊維工業化学の3である。新設大学で修士課程の設置されたものは昭和38年6、39年17、計23校で、このうち工学系は9、農学系は2校である。

当学部の修士課程は第1回入学者は表の如く計4人、40年度は本年10月第一次募集を行い志望者19人中10人を入学せしめた。

最近大学の学部卒業生の実力低下が各方面で問題になっている。これは現在の6334の学制が戦前の6533に比較して大学卒業にいたる年数が1年短いこと、時代風潮に影響されて学生の勉学意識が低下したことなどが現在の科学技術の未曾有の進歩に追いついてゆけないことに主因があるといわれている。このためには大学の年限は5年に延長したいわけだが、これには学制を改革せねばならず、多額の経費を要するので実現は困難である。この救済は大学院を利用することで、少くも修士課程を終って昔の大学卒のレベルに達する。最近大学院出身者を採用するかあるいは社員を学生として大学院に派遣する傾向が会社の間で顕著になってきたが、待遇も別格だし、将来幹部コースに進む公算も大きい。これらの事情を反映して最近大学院の入学者は著しくふえた。学術会議の調査によると工学系大学では昭和34年を基準として38年には修士2.6博士2.2倍に入学者がふえている。

大学にとって大学院の意義は大きい。最近の大学は入学者の増加にともなって教育面に重点がおかれ研究面はどちらかというと軽視の傾向がみられる。これを救うのが大学院で、大学院は教官も学生も真理探究の情熱を燃やす。これが大学をアカデミックな空気に包んでくれる。この空気は旧制大学に学んだものの郷愁にも似た気持ちである。学部はできるならば可及的早い時期に大学院を博士コースにまで延長したい。

なお大学院設置にともなって学部の教官研究費、学生経費などの増加が顕著で増加額は千数百万円に及ぶ。来年度は学年進行が完了する繊維機械学科と共通講座（応用理学、工業経営学）の修士課程が制度化される予定である。

高分子工業研究所

高分子研究は期成同盟会の好意によって昨夏217坪の建物

が農場の一隅に建設され、学部の教官4人が兼任の形で入所して研究に従事である。設備も先きに入れた赤外線分光光度計のほかX線回析装置も用意され着々充実の方向をたどりつつある。高分子工業は原子力産業、電子工業とともに第三次産業革命の一つの柱として金属、木材、陶器などの工業材料としてまたゴム、接着剤、塗料、フィルムとしての発展は飛躍的であり、その基礎となる高分子学も近代科学の中でユニークな位置を占めている。われわれは従来の繊維学とともに高分子学をも学部の研究と教育の範囲にとり入れ、学部の特色ある旗じるしとしてゆきたい。研究所の建物は近い将来増築の予定である。

本年は高分子研を学部附置の研究施設として国立に移管したい意向で予算の要求をしたが、文部省の大学入学者急増対策のため実現をみるにいたらなかった。しかし両3年の間にはぜひ実現してわが国唯一の高分子研として名実ともに充実してゆきたい念願である。

建物関係

昭和17年1月26日焼失した由緒深い旧本館429坪の復興については同窓各位から多大のご配慮にあつかったが、難行の末ようやく実現することになった。本学部の建物面積が大学基準よりかなり上廻ること、信州大学に一般教育統合の計画があり学部がその線に添えば坪数に余じようができるなどの理由によって交渉はいくたびか暗礁にのりあげたが、漸く希望がかなえられ旧本館同様講義室専用として鉄筋3階600坪が認可となり去る8月着工来春3月竣工の予定である。

37年開設された繊維化学工学科研究室は昨年300坪を建てたが、残りの300坪が目下工事中である。これも来春竣工する。

教職員宿舎は同盟会の寄附によるもの家族用4軒、独身者用8人分が本春竣工、現在は国費によるもの3軒を建設中である。学園の環境整備計画の第一歩である正門とその附近の整備ができ附近の景観を一新した。なお学園にある植物に名称をつけたがこれもこの計画の一環である。

次に40年度の計画であるが、主なものは紡織工学科研究室720坪の改築と教職員学生ホールの新築である。紡織工学科の教官研究室は各々独立した小建物で老朽も著しいので学部建物全面改築の第一着手として予算を要求しているが、パスすれば鉄筋3階の不燃建築が紡織工場移改築跡地の北側に建設される筈。次にホールであるが本学部には教職員学生合計1,000名をこえる世帯にもかかわらずこれという食堂も集会所もなく、いろいろの点で不便であるのでホールの新築を計画目下文部省と交渉中である。このような設備の学部単位の建設は文部省の線に添わず非常に困難であるので、学部は若干の自己資金を用意したいのであるが、これについて同窓各位のご了解を得たいことは、かねて火災復興資金としてご拠出金願った金額をこの方に転用させていただきたいのである。この復興資金と長野県、上田市、学生後援会、改新时期成同盟会、教職員拠出金をもって約900万円の資金をつくり

いのである。建設位置は正門を入れて右側の官舎をとりこわしてその跡地を予定している。

改 新 期 成 同 盟 会

事務局長母袋良平氏が健康勝れず辞職された後任を紡7回卒業生大谷隼人氏にお願いし会の運営及び募金に懸命な活躍をしていただいている。募金の方はこの10月末までに8,800万円(内、機械類820万円)のお申し込みをうけ、入金は分割払いで6,300万円(内、機械類670万円)に達し、これを以て高分子研及び官舎の建築、赤外線光度計ほか各種の研究用機械の購入が出来た。募金は最初の目標1億3,000万円にはまだ5,000万円不足するが、努力して目標を達し、高分子研の増築、繊維物理学及び化学の特別研究室新築の費用にあてたい。募金については今まで同窓各位から多大のご配慮をいただいたが今後もよろしくご協力下さるようお願いしたい。

学 部 規 模 の 推 移

最後に学生の入学状況と学部の最近5ヶ年間の規模の変遷を表に示してご参考に供したい。本年は5年前の昭和35年にくらべて学生定員は大学院の学生をも含めて2倍、教官、事務職員はともに1.4倍、人件費は2倍、物件費は4.4倍、施設費は18倍、予算全体としては3.4倍にそれぞれ増加している。(1964.11.20記)

本文は11月23日の同窓会の総会で講演した大要である。

世 態 変 遷 感

石 倉 新 十 郎

有為転変の世の中と言われるが、図らずも長命して80才となった私自从過去を省ると、世態の変遷は実に予想しなかったものである。其の最たるは大日本帝国が小民主国に変ったことである。

過去に執着する心では親しかった人達も事柄も消滅して淋しいものであるが、日進月歩の蹟を見ると喜びと楽しさの連続である。近來の著しい科学の進展によって自然の実態が漸次開明理解され、宗教の正態も明かに知れて人生観が変わって来たが、変わらないのは四千年前哲学的に声明した老子の達見であろう。科学がこれほど進展しても、自然界の数知れぬ妙は依然として実態不可解のままである。

古来幾多の所謂達人は各々将来の趨勢を遠見予言して世人を覚醒させ指導したのであるが、それらの人は速くて数年或は数十年永くて数百年の先見でしかなく、其れによって世人は指導され感謝を捧げたのである。そして其の中には時の権力者に忌避され処刑された者も少くないのである。こうしたことは東西今を通じて同様であって、社会的に栄達した者の多くはせいぜい二、三年先きを達眼で知り、社会貢献を目的とするのでなく自個の希望達成に努力したのである。それは軍人であれ政治家であれ実業家であれ例外はないようである。

翻えて私個人の身辺について見ると、上田蚕糸専門学校は繊維専門学校と変り、それが現在の信州大学繊維学部と変わったのである。そして農学的養蚕本位の学校が工学的学部となり、其の内容も物理的・化学的に進展して、真に科学的に充実した教育機関となったことは欣喜の至りである。

学部担当の職員方が時勢の傾向を達見して之れに即応し各自の社会的置位榮達を計画するは結構である。然し一面には之れを超越し度外視して、自然界の妙に対し科学的に探究する面があってもらいたいと思うのである。

ここに其の妙の一例を挙げれば網ぶるい(籐)の工作であ

第1表 昭和39年度学部及び大学院の志願者及び入学者数

学 部		織 維 紡 織	織 維 機 織	織 維 機 織	織 維 機 織	織 維 機 織	計
		農学科	工学科	工学科	工学科	工学科	
学 部	志 願 者	53	99	166	222	137	677
	入 学 者	23	41	40	45	39	188
大 学 院	志 願 者	2	3	1	—	—	6
	入 学 者	2	1	1	—	—	4
	志 願 者※	1	2	13	3	—	19
	入 学 者※	1	2	7	0	—	10

※は昭和40年度第一次募集

第2表 最近5ヶ年の学部の規模(1964.11.20)

年 度	人 数			予 算			計	
	学 部 学 生	大 学 院 学 生	教 官 職 員	人 件 費	物 件 費	施 設 費		
1960	125	—	63	91	6,860	1,915	607	9,382
1961	175	—	63	91	8,187	3,183	370	11,740
1962	175	—	73	106	9,523	4,678	1,176	15,376
1963	215	—	79	110	11,490	6,559	7,440	25,490
1964	215	32	87	123	13,118	8,330	10,623	32,072

備考：学生の人数は入学定員、予算の単位は万円

る。会員鈴木教吾君(元郡是産業KK社長)の語る所によれば、化学的人工繊維の発達が現在ほどに進化したのかかわらず生糸のセリンのような物質を附着しえないために依然として天然生糸を原料としなければならぬとのことである。私の知識は専門学校時代程度でフィブロンもセリンも其の発生は同時で化学的組成も僅かに相違しているだけであると言うのであった。然しこの両者がなぜ異なるのかは知らない。この相異の根原が科学的に明かになれば、生糸でなくとも網節の生産が容易になるのではないかと考へが湧くのである。

之れは私らだけが知らないことで已に一笑に附せられる問題かもしれない。世態変遷の所感の一部として披露したものである。


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

退 任 の 挨拶

荻 原 清 治

師走の声を聞いて寒さが加わってきたこの頃、会員始め教職員の皆様には益々お達者でご活躍のこととお喜び申し上げます。私こと今回理事長の職を退くことになりました。去る昭和36年11月の総会において皆様のご推挙をうけて職について以来、二期4ヶ年の間無事大過なく任務を果たすことができましたことは全く皆様のご愛顧によるものと、ここに紙上を借り厚く御礼を申し上げます。4年の間をふりかえってみて全く無為にすごしてきたことに自分の力の足らなかったことを痛感しています。今思い浮ぶことは慈父のように敬愛していた井上先生、林先生の計、旧本館の火災などは心痛むべきこととあります。また新しい時代の要求に添うて学部長始め教職員の皆様のご努力により次々と立派に変わっていく母校の容姿は

嬉しい思いであり、初めて東洋で開かれたオリンピックも在任中のでき事として永く思い出にのこることでしょう。千曲会是の中心はどこまでも会員ならびに賛助会員の間の親睦であります。この親睦の実をあげるこそは母校の発展につながると思います。母校は今、益々発展の途上にあります。うちにはいろいろと困難な問題を内蔵しています。千曲会は母校当局に協力して益々明朗な母校をきついでいっていただきたいと思ひます。各位には益々御自愛の上団結を固くして、会の発展のため新理事長の方針にご協力下さいますようお願いいたします。ここに在任中の各位のご協力に対し、心から御礼を申し上げますと共にいよいよご健康で御活躍されますようお祈りし退任の挨拶とします。

支 会 だ よ り

別れ難い同窓愛

—東京支会総会—

マロエの葉落ちて東京の秋を知る。肌冷気を感じる11月16日夜、代々木の農林省宿舎において、東京支会の総会が開催された。

本部からは野口先生、中村先生が参加され、加えて上京中の竹田先生も飛び入り下さって、58名の出席による盛大な会となった。

何時も同じ顔ぶれの大先輩はもとより、卒業後10余年ぶりだと云い合う人々も居れば、若年層の新顔も甚だ多く、さらに紅二点の出席は心暖まるものがあつた。

形式的な議事は短時間に形づけ、役員改選も選考委員会において選出し、万場の賛意によって下の人々が決定された。

支会長 小林運美

副会長 有我彰夫、牧 道男、大木定雄、福地 進、横内豊彦、小泉辰雄

この総会で特記すべき事項は、若い層が多くなつたことである。元来千曲会が養蚕と製糸によって運営されていたきらいがあつたものに対して、その他の科が協力的に進んできたことは誠に喜ぶべきことであつて、特に若い層がそうした気持になつたことは甚だ嬉しいことといえよう。

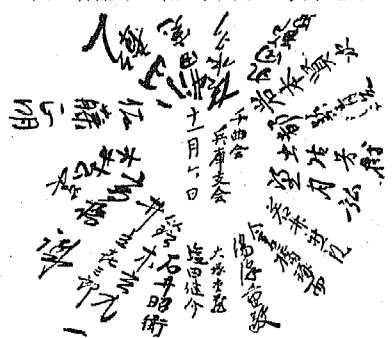
も一つの点は、宴がますます盛會を極め9時になつても、ほとんど呑み合つていて、帰えろうとしなかつた点である。今までだと8時には大半が引き上げていたものが、みんなで歌つたり呑んだりで或は三々五々集つて語り合い、時の経つを忘れていたのである。

この情景は、悲感的な見方をする今日の同窓愛とか人間愛の不足を、強く否定したものであつて、言わず語らず心と心が交流を深めてくれたものといえよう。

例年の出し物パッパを齋藤義臣によって結び、校歌合唱、千曲会の万才三唱の後解散した。(齋藤記)

兵 庫 支 会

菊薫る11月6日神戸港を見おろす翠甲園において兵庫支会総会が開かれた。計部より竹田寛先生がお忙しい中を御来駕くださった。鈴木玄九支会長の挨拶、会務報告、会計報告の後竹田先生より母校の近況をうかがつた。しかし校舎、実験室新築等のことを耳にするにつけ目に浮ぶものは矢張り学生時代の校舎や目にしみるような紅葉につつまれた上田であつた。続いて灘の生一本に舌鼓みしながら懇親会にうつり会員の消息、支会の運営、上田の昔話等に花が咲き秋の夜中を忘れ



させた。出席者は寄せ書のとおりであつたが、出席者の中には近畿支会より湯沢重敬(糸9)、若林新一郎(糸10)、若い会員では幡州竜野より馳せ参じた清水卓雄(学紡10)諸氏がありこの会を盛會にしてくださつた。校歌合唱があり皆々上気嫌の内に学部の発展と兵庫支会の万歳を大塚重蔵氏の音頭で声高らかに唱和して散會した。最後に毎年のことながら支会の連絡に梨の疎の人がなんと多いことか、若い会員の出席が少なく年々淋しくなるようであつたらぬ。どこの支会でも実情は同じと思うが会員各位の自覚の程をお願い致したい。(石井記)

古 谷 先 生 の 消 息

前上田織維専門学校教授古谷栄蔵先生は昨年高血圧にて倒れられ、半身不随となり療養中です。現在奥様が付きそつておられます。しかし体のご不自由にもかかわらずしごくお元気で過しておられます。

千 曲 会 費 完 納 者

会費通算40回完納者は内規で会費免除されることになっているが今回の方はこの内規に該当し会費免除となつた。本会向上発展のため多大のご協力を深謝します。

- 荻原 清治(糸12回・上小支会)
- 宮城 博(蚕13回・北信支会)
- 町田 博(蚕21回・上小支会)
- 坂口 育三(蚕22回・上小支会)

編 集 部 か ら お 願 い

会社、研究機関等における卒業生の活動状態訪問欄を新設することについて

新年度より本会報に会社、官庁、研究機関等における卒業生の活躍状況等を興味深く掲載することを企画いたしました。つきましては会報係より表記のことについて訪問を御依頼申し上げたときには、よろしくご協力の程をお願い致します。

11月23日の総会で会報部員も新年号から新しい有力メンバーで編集されることとなつた。ご期待下さい。

多事多端の1964年も残り少なくなった1年を振りかえつて、新しい心構えで会員皆さん多幸躍進の1965年を迎えよう。

- 編集委員 小林尚一、香山清和、大屋正尚、吉平福紀、滝沢達夫、窪田衛二、小山定、小林勝、白井要範

会 員 動 静

新名簿頁	会 員 名	学科名	支会名	動 務 先	住 所
54	田近 肇	蚕 22	安 筑	王滝村教育委員会	長野県西筑摩郡王滝村
67	西川 正徳	蚕 30	香 川	牟礼中学校	
100	小林 幸雄	学農10	東 京	東京都杉並区下高井戸4の993東棉寮	
102	村上 和夫	学農11	東 京	東京都三鷹市下連雀113高田方	
127	前田 益蔵	糸 10	山 陰	鳥取県岩美郡国府町麻生95	
138	井上 正夫	糸 18	近 畿		吹田市古江台1の22の5
162	湯浅 豊	糸 32	東 京	東邦プラスチック代表取締役 (東京都大田区下丸子37電(03)7851)	横浜市港北区太尾町523 電(45)1176
162	岡野 琢也	糸 32	東 京	東京樹脂KK	東京都世田ヶ谷区上馬町1の593
167	和田 重盛	糸 35	東 京	東京都立本所工業高等学校 (東京都葛飾区水元小合町1514)	
192	今吉 策朗	紡 5	北九州	大分県中津市中殿町3丁目	
193	市原 安臣	紡 7	岐 阜	岐阜県美濃市蔵生713	
200	尾和 博行	紡 16	静 岡	大東紡織KK浜松工場 (静岡県浜名郡可美村高塚1,788)	浜松市東伊場町4,772
210	内山 光章	紡 24	静 岡	富士紡織KK	静岡県浜名郡湖西町ワシズ1592
233	西村 正孝	学紡6	愛 知	富士紡織KK	愛知県小坂井町大字伊奈富士清風荘
239	小泉 幸道	学紡10	山 陽		広島県三原市帝人筆影寮
245	橋詰 久	学紡12	近 畿	ニチポー第2綿工務部縫製課	大阪府三島郡本町大字山崎ニチポー 本店日章寮
250	平井 克巳	化 2	東 京	日本化薬KK開発部(東京都千代田 区丸の内1の6東京海上ビル新館3階)	
256	森田 雅夫	化 5	東 京	東京都立久留米養護学校 (東京都北多摩郡久留米町野火止)	
256	湯沢 裕	化 5	北 奥	本荘教会牧師	秋田県本荘市東町56
261	馬場 慎	化 7	富 山	三菱アセテートKK富山工場 (富山市海岸通り3)	富山市加古町富山工場社宅西12

特許・実用新案・意匠・商標
出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591)0764・0765

弁 理 士 浜 香 三
弁 護 士 中 猪 之 助
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北 野 次 登

長野市県町524
東京都中央区銀座1の5北野ビル
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル
松本・高田・ジャカルタ



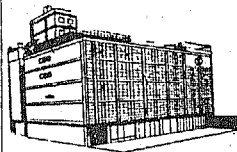
オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田650

社 長 増 島 芳 美



皆様の百貨店

上田・中央

